

株式会社パソナグループ × 東京キワニスクラブ

1. 概要：東京キワニスクラブ×パソナグループ社会貢献委員会

パソナグループの社会貢献委員会は、2005年から設置され今年で14年目となりました。環境保全、地域活性、障害者支援、社会福祉など、さまざまな活動の中で地域に根差した社会貢献活動を企画・推進しています。その中で、2012年から今年で7年目となったのが、一般社団法人東京キワニスクラブとの活動です。特に、子どもたちへの支援に力を入れていらっしゃるキワニスクラブの大きな活動のひとつに、「キワニスドール」の制作、普及が挙げられます。パソナグループ社会貢献委員会は、東京キワニスクラブの中で最も大きな活動の一つである「キワニスドールフェスティバル」を一体となり運営しています。



2. キワニスドールとは

キワニスドールは、綿を詰めた白無地の人形で、小児科の医師が患者の子どもたちから病状を聞いたり、人形に内臓の絵を描いて治療の説明をしたりする時に使用します。小さな患者さんは大好きな顔を描いていつも側に置くことで、彼らの恐怖心を取り除き、診察や治療をスムーズに進めることができます。また、看護大学で実習に使用されたり、養護学校では児童に体の説明に使われたりと様々な場面で活用されています。

3. キワニスドールフェスティバル運営

東京キワニスクラブとの長年の連携から、パソナグループ本部はサテライトクラブ（キワニスクラブの支部）に認定されました。ドールについて多くの方に理解をしてもらうため、毎年「キワニスドールフェスティバル」を開催しています。キワニスクラブの会員、一般のお客様、パソナグループの社員、派遣スタッフやクライアントが一堂に会し、今年は140名の方が集まりました。毎年、第一部に「キワニスドールシンポジウム」を開催。一人ひとりの想いをのせて制作されたドールが、医療現場で実際どのように使用されているのかについてトークセッションを行いました。子どもたちや医療従事者の反応、想いを知り理解を深めた後、第二部では参加者全員で実際にキワニスドールを作っています。その他にも、東京キワニスクラブが社会貢献活動を行っている学生団体の中から特に尽力した団体を表彰する「青少年教育賞」の表彰式の運営サポートや、キワニスクラブの定例勉強会で社会貢献活動に関する講師等を行い、東京キワニスクラブの活動に賛同し、多くの社員が継続した活動をしています。

4. 最後に

これまでにおよそ1000体のキワニスドールを制作し、聖路加国際病院、慶応病院、順天堂大学病院、東大病院等、全国の病院や団体に寄贈することができました。またフェスティバルの運営においては、開催4か月前からメンバーが打ち合わせを重ね当日の企画を行っています。パソナグループ各社の社会貢献委員が、全国の社員はもとより、派遣スタッフの皆様やクライアントの方々にもお伝えし、認知度を高めることができています。

社員自身もキワニスクラブと一緒に交流・活動し、また代々活動を続けていくことで、7年目となった今、広く活動を浸透させることができました。フェスティバルの開催に於いては、自分たちの支援がどう子どもたちに繋がっているかを知ることによりやりがいも生み、リピーターとなって何度もご参加いただく方が多くいらっしゃいます。

忙しく過ぎていく日常の中で、病と闘っている子どもたちに目を向け考える機会は多くありません。この活動に大きな意義・意味を感じ、今後も東京キワニスクラブと連携して継続した支援と活動を続けて参ります。

